

月刊 しばうら

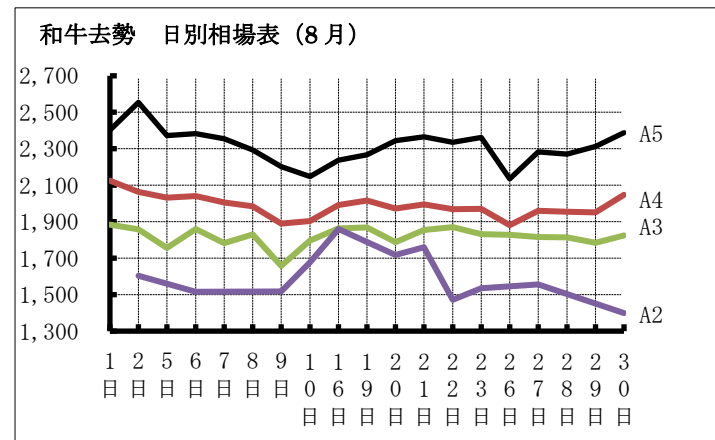
2024年 9月号

牛肉営業部

＜8月の相場動向＞

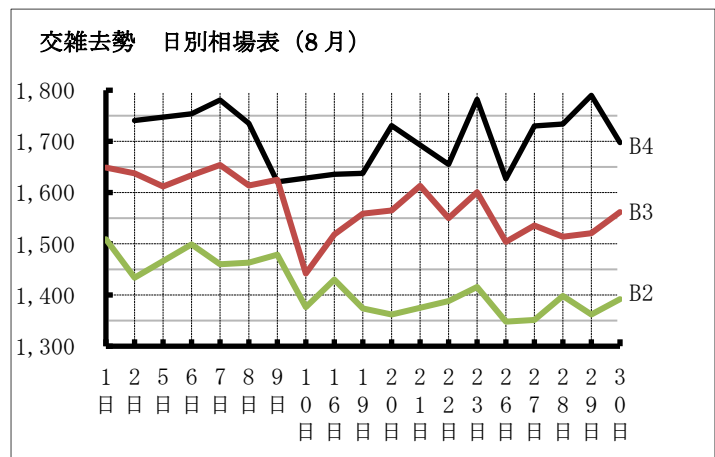
例年は夏休みの行楽需要に向けて引き合いが活性化するところであるが、今年は南海トラフ地震臨時情報や台風の上陸で、外食・宿泊関係で納品キャンセルが出るなど逆風の展開となった。和牛は4等級を除いては前月実績を下回る結果となり、交雑牛はモモ部位の引き合いが強かったため、前月並みの相場展開となった。

訪日外国人の入国者数は7月までの直近5カ月連続で300万人を超え、累計入国者数も史上最も早く2,000万人を超えたが、ニーズの多様化から牛肉需要の活性化には至っていない。



和牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
A5	2,328円	-130円 94.7%	-49円 97.9%
A4	1,993円	-74円 96.4%	+4円 100.2%
A3	1,827円	-5円 99.7%	-25円 98.7%
A2	1,648円	+120円 107.9%	-26円 98.4%



交雑去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B4	1,707円	+71円 104.3%	-36円 97.9%
B3	1,577円	+143円 110.0%	-24円 98.5%
B2	1,406円	+139円 111.0%	-48円 96.7%

乳牛去勢 (月平均)

	加重平均	前年同月比	前月比
B3	-	-	-
B2	-	-	-

＜9月の牛肉輸入量予測＞

財務省が発表した輸入通関実績によると、7月の輸入量は前年同月比27.5%増の4万9,347tで、うちチルドは2.6%減の1万8,875t、フローズンが57.7%増の3万472tと大幅に上回り、前月比では3.7%増加した。

農畜産業振興機構によると8月の牛肉輸入数量予測は、前年同月比4.7%減の4万3,500t（チルド0.5%増・冷凍7.9%減）、9月は8.6%増の4万200t（チルド1.8%増・冷凍13.4%増）と予測している。

冷蔵輸入量については国内需要が低調のなか、輸入品在庫量が多かったこと、前年同月の輸入量が少なかったことから8・9月ともに前年同月を僅かに上回ると予測している。

冷凍輸入量は、8月は現地の相場高の影響で米国産の輸入減少が見込まれるものの、9月は前年同月を大きく上回ると予測している。

輸入牛肉通関量		7月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	9,749	9,285	105.0%
	米国	7,722	8,956	86.2%
	その他	1,404	1,132	124.0%
	合計	18,875	19,373	97.4%
フローズン	豪州	16,809	8,013	209.8%
	米国	6,622	5,338	124.1%
	その他	7,041	5,975	117.8%
	合計	30,472	19,326	157.7%

出典：食肉速報 単位：t

＜9月の全国出荷頭数予測＞

農畜産業振興機構による9月の出荷予測頭数は、全体で前年比97.8%の8万8,400頭で、品種別にみると和牛は3.1%減の3万9,100頭、交雑種は6.9%増の2万2,900頭、乳用種は7.5%減の2万5,300頭と予測している。

東京食肉市場の9月のと畜頭数は7,000頭（前年比0.2%増）を予定しています。

＜9月の牛枝肉相場見通し＞

9月は3連休が2回あり、間屋筋には行楽需要の高まりを期待する声があるが、依然として物価高騰に対する生活防衛意識が高く、節約志向は継続する見込みであることから、牛肉需要が大きく回復するとは言い難い。今後も残暑が続くと予測され、量販店での焼き材からスライス材への移行は先になると予想される。和牛は秋口から始まる催事や産地フェアに期待したい。

8月後半には堅調であった交雑も、ロース・肩ロースの売れ行きが軟調であること、円高に振れた後に通関したものが8月末から入荷していることなどから、輸入牛肉の入荷量が安定し単価の下落があれば弱含みの展開も想定される。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,450～2,600	B4	1,650～1,750
A4	1,950～2,100	B3	1,550～1,650
A3	1,800～1,900	B2	1,400～1,500
A2	1,600～1,800		
乳牛去勢			
B3	1,050～1,150		
B2	950～1,050		

豚肉営業部

7月の全国と畜頭数は、131万1,116頭（前年同月比5.1%増）と前年を上回った。また、7月の豚肉通関数量は8万6,250t（前年同月比15.1%増）と前年を上回り、前月比では5.6%の増加となった。内訳はチルドが2万7,843t（8.1%減）、フローズンは5万8,407t（30.9%増）。

2023-2024年の需給量と推定期末在庫						
月	供給量		推定期末在庫		推定出回り量	
	生産量	輸入量	国産物	輸入物	国産物	輸入物
7	68,264	74,831	20,758	220,067	66,926	79,972
8	70,175	73,862	21,032	217,704	69,796	76,225
9	69,500	61,727	21,452	203,477	68,945	75,954
10	78,467	70,100	19,689	192,812	80,065	80,765
11	82,650	74,813	20,154	184,253	82,084	83,372
12	81,152	67,663	21,381	170,120	79,774	81,796
1	80,283	72,051	20,836	173,172	80,748	68,999
2	77,558	64,527	21,439	165,686	76,853	72,013
3	77,333	74,351	23,117	166,119	75,518	73,918
4	78,976	98,780	22,670	174,059	79,317	90,840
5	76,183	94,087	24,239	189,925	74,520	78,221
6	66,310	81,660	24,750	193,156	65,692	78,429
7	71,679	86,155	23,227	195,529	73,101	83,782

出典：農畜産業振興機構 比：最終月の前年同期比 単位：t

7月豚肉通関実績					
国名	冷蔵	前年比	国名	冷凍	前年比
アメリカ	10,995	76.6%	デンマーク	6,096	183.8%
カナダ	13,029	99.4%	スペイン	18,704	130.3%
メキシコ	3,816	134.5%	メキシコ	7,077	89.4%
			アメリカ	6,400	141.3%
			カナダ	5,627	157.8%
合計	27,843	91.9%		58,407	130.9%

単位：t

＜8月の豚取引の推移＞

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	60,600	809	784	662
2日	58,500	797	781	1,017
5日	62,300	819	803	897
6日	63,900	810	791	1,046
7日	59,000	809	780	783
8日	63,000	800	785	686
9日	—	766	734	1,056
平均	61,217/日			878/日

相場は引き続き上物800円台の高値を維持した。猛暑が続く中、全国と畜頭数が伸びず、輸入物もタイトな状況にあることが相場高騰の要因となった。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	38,600	760	750	1,026
16日	50,900	793	785	1,020
19日	60,300	805	772	1,009
20日	65,700	822	797	1,020
21日	60,400	824	790	679
22日	61,100	771	751	763
平均	56,167/日			920/日

消費者の節約志向は依然として強く、旧盆商戦の最中でも末端の荷動きは良くなかったが、相場は高値が続いた。全国的に厳しい暑さが続き、高温による輸送時の事故や市場到着後の係留中の死亡事故も増えた。

	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23日	62,500	769	727	966
26日	61,400	696	641	736
27日	66,600	685	645	1,060
28日	59,100	671	639	829
29日	44,100	673	647	615
30日	49,200	655	639	1,060
平均	57,150/日			878/日

出荷頭数が引き続き少ない中、26日に前週からマイナス73円急落し、約1ヶ月ぶりに上物相場が600円台となった。末端消費は旺盛ではないものの、輸入物の品薄感もあり、安価なひき材や、切り落とし用アイテムの引き合いが強かった。

＜9月の豚枝肉相場見通し＞

農林水産省による令和6年9月の肉豚出荷予測では132万3,000頭（前年比102%）と予測している。

当市場の9月集荷予定せり頭数は1万7,000頭、1日あたりでは約894頭を見込んでいる。

農畜産業振興機構によると9月の豚肉輸入見込数量は、総量で8万2,600t（同133.8%）、内訳は冷蔵輸入量が3万500t（同114.3%）、冷凍輸入量は5万2,100t（同148.8%）と予測。

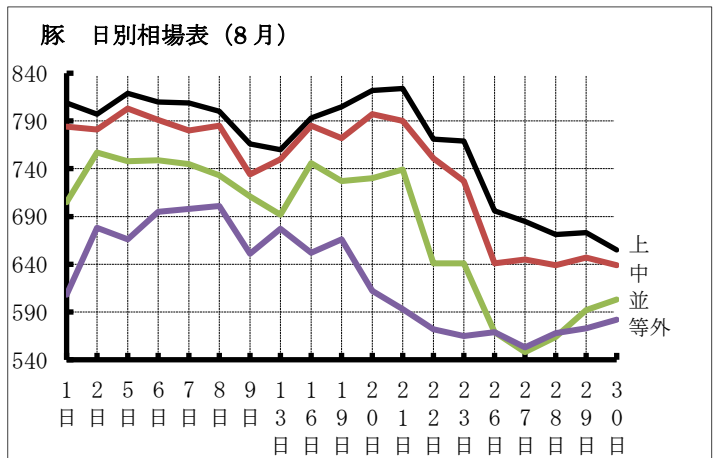
冷蔵品輸入量は前年同月の輸入量が少なかったことから、前年同月をかなり大きく上回ると予測している。一方で3ヶ月平均では前年同期をやや下回ると予測している。

冷凍品輸入量は米国産及びブラジル産輸入量の増加が見込まれることなどから、前年同月を大幅に上回ると予測し、同じく3ヶ月平均でも前年同期を大幅に上回ると予測している。

9月は学校給食の再開による引き合いの強まりと、2週続けて3連休があることで行楽需要にも期待が高まる。相場は連休前の手当てによって、一時的に高値となることが予想される。今後は米、野菜価格の高騰や、為替が円安に振れてきたことで、輸入物にシフトする動きがみられる可能性もありそうだ。

供給面では残暑の影響により、上旬は出荷頭数が少なくなりそうだが、中旬以降は気温の低下に伴って順調に増える見込みとなっている。今後の気温や台風など天候次第となるが、順調に出荷頭数が増えることによって、相場は連休以降に落ち着く展開となりそうだ。

以上のことから当市場の上物平均価格は650円前後、中物平均価格630円前後の展開と予測する。



東京都港区港南2-7-19
東京食肉市場株式会社
TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127